40. 8. 27

No. 606

一、皇太子御一家を訪問

——沖縄の豆記者

軽井沢でこの夏を過していらっしゃる皇太子御一家を沖縄からきた豆記者が訪問。御一家の日常の生活などを取材したあとおみやげにお国自慢の踊りを披露しました。

一、つり堀り盛衰記

——東　京

眠れぬ夏の夜に登場した新手商法つり堀りは異常なブームを呼びました。

だが、このところ客足は減る一方、そこで夏の終りに夢よもう一度とあの手、この手の客引き攻勢。つり堀りにも秋風が立ち初めたようです。

一、苦悩する沖縄

戦後二十年、アメリカの施政権のもとにある沖縄。最近ベトナム紛争を中心とした東南アジア情勢の不安定は、アメリカにとって基地沖縄の重要性はますます高まっています。これは同時に、住民は再び戦争にまきこまれるかも知れないという不安にかられているのです。

こうしたさなか、総理として初めて八月十九日、沖縄に足をふみ入れた佐藤首相。行政府ビルに、ワトソン米高等弁務官、松岡琉球政府主席らを訪問。さらにひめゆりの塔、島守の塔、黎明の塔を巡拝。

大平洋戦争で散った若き人々の霊をなぐさめました。

だが、その夜、宿舎東急ホテルに帰える途中、祖国復帰協議会のはげしい請願デモにあい米軍基地の迎宿館で一夜を明かすさわぎとなってしまいました。

二十一日、佐藤首相らは、日本の首相として初めて宮古、石垣両島を視察。子供たちの〃早くテレビを見せて下さい〃という幼ない願いに〃一刻も早く実現したい〃と応えました。

さらに、島民の舞う〃しし舞い〃を見学、旅の疲れをいやす首相。

こうして、この沖縄訪問で、佐藤首相は、施政権の必要を痛感したといわれ、佐藤外交の前途のきびしさをきわ立たせたのです。